

(款) 15民生費 (項) 10児童福祉費 (目) 5児童福祉総務費

◎小児医療の経費

小児医療助成事業

【 保険年金課 】

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

健康福祉:すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

【事業の目的】

対象 0歳～小学校3年生の入・通院した者と、小学校4年生～中学生の入院した者

意図 医療費を助成することにより、小児の保健の向上に寄与するとともに、福祉の増進を図るため。

効果 小児の養育者の経済的負担を緩和し、医療を受けやすい環境を醸成する。

【事業の内容】

(1) 小児医療助成事業

- ・ 食事療養標準負担額を除く0歳～小学校3年生の入・通院と、小学校4年生～中学生の入院にかかる健康保険自己負担分医療費の全額を助成した。小・中学生については一定の所得制限を設けている。

【中事業に含まれる実施計画事業】

小児医療費の助成(4-1-4-⑧)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
448,669	395,469	382,711		12,758
主な支出内訳				
・ 小児医療助成事業				
臨時的任用職員賃金				102
医療助成事務用消耗品費				149
受診証印刷製本費				47
診療報酬明細書印刷製本費				34
審査支払等手数料				10,699
医療費助成システム改修委託料				3,675
医療費扶助				368,005
主な特定財源				
・ 国県支出金				
				45,583
助成件数	延	202,636件	月平均対象者	11,686人

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 健福-53 小児医療助成事業 □支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	0065 小児医療助成事業							
		0785 小児医療助成事業							
主管課	保険年金課		関連課						
分野名	健康福祉								
目標 (目標値)	小児の保健の向上と福祉の増進								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
運営資源 状 況	決算値	382,711千円	433,880千円	369,156千円					
	(国・県)	45,583千円	37,508千円	31,426千円					
	(負担金等)	4,641千円	11,850千円	4,148千円					
	(一般財源)	332,487千円	384,444千円	333,582千円					
	人員配置数	1.3人	1.0人	1.0人					
	人件費	13,015千円	10,127千円	9,576千円					
事務事業 運営経費	協働の パートナー								
	総事業費	395,726千円	444,007千円	378,732千円	H.20対象者: 11,774人				
	市民1人当 りの経費	2,242円	2,524円	2,164円					
	対象者1人 当りの経費	33,610円	37,988円	32,876円					
19年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)		
		目標値							
		実績値							
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している									
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)									
団体名	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市
所得制限無限界年齢	0	0	0	就学前	就学前	小6	0	3	0
通院対象年齢	就学前	就学前	就学前	小3	小3	小6	就学前	就学前	就学前
相模原市	三浦市	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	南足柄市	綾瀬市
0	就学前	制限無	9	0	0	就学前	0	0	制限無
小3	就学前	6	10	就学前	就学前	小6	小3	就学前	小3

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ①平成20年10月から神奈川県が一部負担金の導入と助成対象年齢の拡大を行ったため、電算処理システムの改修を含めた、制度改革への準備が必要だった。 ②一部負担金を導入しないが、補助金を受けるため、一部負担金相当額の計算が必要となり、事務が煩雑になった。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 制度改革への対応について、神奈川県や他市町村と協議をし、制度移行への準備を行った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ①事業費の抑制 ②神奈川県の医療費助成改正に伴い、一部負担金導入に関して市町村対応に差が生じる可能性がある。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ①レセプト点検等の医療費の適正化、疾病予防施策、健康増進施策等の実施 ②近隣市町村の状況を把握し対応を検討していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	子育て支援策の中でも特に市民からの要望は高いため、財政状況等に配慮しながら、充実を図りたい。		
担当課長氏名:	保険年金課長 相澤 昭弘		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	子育て支援施策の充実という観点からも、事業の充実が必要と考える。また、財政状況を考慮し、助成年齢の範囲をどこまでとするかが、今後の課題である。		
担当部名	健康福祉部	部長名	石井 和子